

製品名: 53BP1 (リン酸化 Ser1778) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04190**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000
分子量	213kDa

抗原情報

遺伝子名	TP53BP1
別名	Tumor suppressor p53-binding protein 1 (53BP1) (p53-binding protein 1) (p53BP1)
遺伝子 ID	7158.0
SwissProt ID	Q12888
免疫原	ヒト 53BP1 (Ser1778) 周辺の合成リン酸化ペプチド

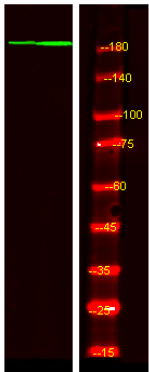
背景

機能:有糸分裂中のチェックポイントシグナル伝達に関与している可能性がある (類似性による)。TP53 を介した転写活性化を促進する。DNA 損傷への応答において役割を果たす。PTM:PRMT1 によって Arg 残基が非対称にジメチル化される。メチル化は DNA 結合

に必要である。PTM:DNA 損傷がない場合、基底レベルでリン酸化される。電離放射線によって誘発される DNA 損傷に反応して、ATM 依存的に過剰リン酸化される。紫外線照射によって誘発される DNA 損傷に反応して、ATR 依存的に過剰リン酸化される。類似性:2つの BRCT ドメインを含む。細胞内局在:動原体に関連。一部の細胞では核内と細胞質内の両方に存在。二重鎖切断などの DNA 損傷部位にリクルートされる。ヒストン H4 の「Lys-20」のメチル化は、二本鎖切断部位への効率的な局在に必要である。サブユニット:IFI202A と相互作用する(類似性による)。TP53/p53 の中央ドメインに結合します。ホモオリゴマーを形成する場合があります。DCLRE1C と相互作用します。ヒストン H2AFX と相互作用し、これには H2AFX の「Ser-139」のリン酸化が必要です。「Lys-20」がジメチル化されたヒストン H4 と相互作用します。モノメチル化された「Lys-20」を含むヒストン H4 との親和性は低いです。メチル化されていない、またはトリメチル化された「Lys-20」を含むヒストン H4 には結合しません。「Lys-79」がジメチル化されたヒストン H3 との親和性は低いです。「Lys-79」がモノメチル化されたヒストン H3 との親和性は非常に低いです(in vitro)。メチル化されていないヒストン H3 には結合しない。

研究分野

画像データ



LPS 処理または未処理の HeLa 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。